

都々逸  
エレキ冊子

踊る  
阿呆に  
詠む  
阿呆



都々逸エレキ冊子

唄う阿呆に

詠む阿呆

春号



## はじめに

都々逸（どどいつ）は、江戸末期に初代の都々逸坊扇歌によって大成された口語による定型詩であり、七・七・七・七・五の音数律に従って詠まれる。

元来は、三味線と共に歌われる俗曲で、音曲師が寄席や座敷などで演じる出し物であった。主として男女の恋愛を題材として扱ったため情歌とも呼ばれる。

(Wikipedia より引用)

これは以前発行した「[都々逸エレキ冊子](#) 歌う阿呆に詠む阿呆」の春号です。

「春」をテーマに詠まれた都々逸と、都々逸にちなんだ企画などをお楽しみください。

# 目次



題詠「恋」 8

歌詠み「さくらさく／さくらちる」 14

自選・他薦都々逸再掲 20

都々逸×ついのべ 26

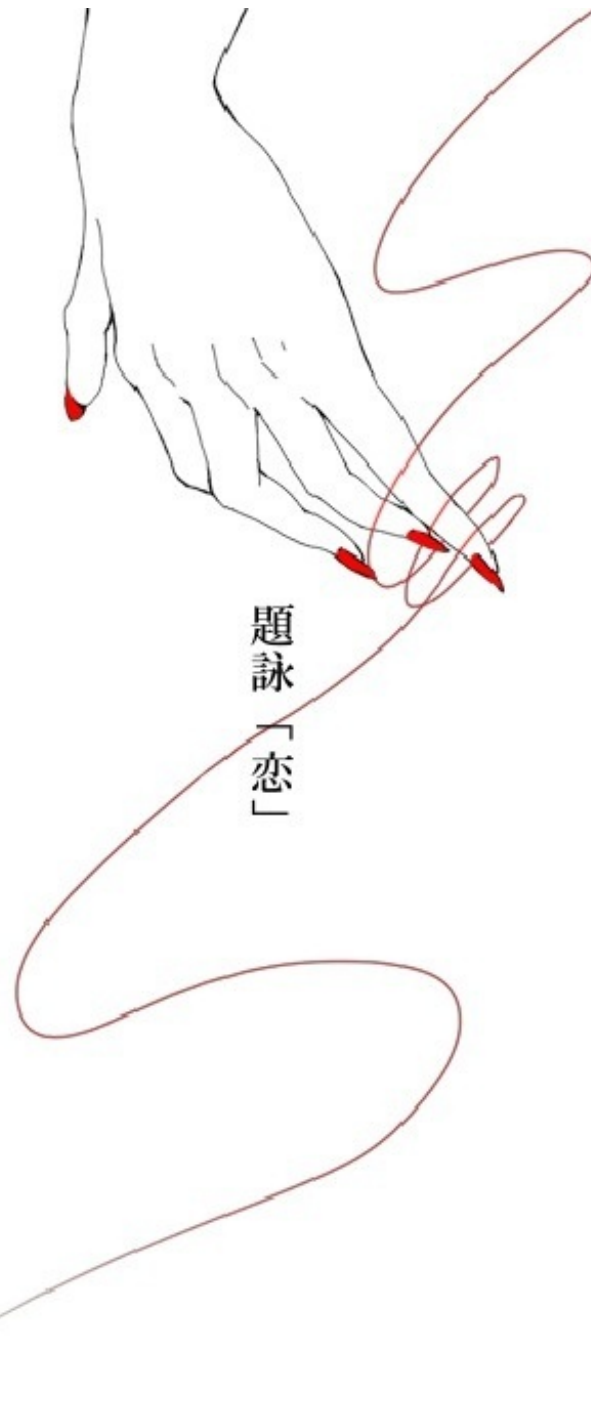
コラム「歌詠み舟」 32

参加者一覧 38









題詠「恋」

雪がとけたら花よりはやく埋めた未練が 芽を出した いものめ

たった二文字の気持ちも言えぬ墓まで抱えて殺しましょ 晴乃

肌を絹地に 唾液を蜜に 変える秘薬を恋と呼ぶ ほいる

こいこいよし来い 撒き餌をやろう 二度と他のは 食べさせぬ ポンゴレーノ麴

恋と愛 心の大きさ比べてみれば恋が止まらぬわけを知る トマトっぼい

好きだ嫌いだ 答えはどちら 花に聞いても落ちるのみ 透子

亦も心を奪われるから人を待つては来い(恋)と言う ルオ

「友の話」と言う昼遊び 好きと泣き出す夜の飲み 下弦

三口で酔うほど下戸ではないよ 下手な芝居に早よ気付け 和純

目が放せない あなたの笑顔 淡い春色 恋心 楓ようこ

こいし踏みつけ こいしを蹴って 恋をなくした 帰り道 たれ

灰に埋もれた 焼け木杭を 消すに消せない 胸の奥 猫亭屑屋

伸ばす手の先あなたはいない 寝返りうって 壁に触れ ナダ

惚れた腫れたと からかいながら そっとかくした 嫉妬心 名堀

好きの二文字を 書いては消して 授業ノートは 白いまま むこれっど

空に放たれネオンの尾引く彗星出来たシーラカンス 梅原 鷗外

心忘れて 久しくなれば 恋という字が 変になる 屑亭猫屋

好いた惚れたと嘯き笑う 嘘だと思っ  
ていてほしい 豆太

わたしとあなたが寄り添う写真 火を付け告げたの「さようなら」 ふちさき

恋を夕陽に例えた君の沈む瞳を癒せず  
に 福山桃歌

言えばたったの二文字なのに なぜか口数減るばかり 小早川

瞳の色さえ知らないままで 声色ばかりは憶えてる 東風

好きよ大好き言ったら最後 初心な貴方を困らせる ageha.

幸せにする覚悟を連れて君の心にお邪魔します あつくん

いつかまたねと手を振るしぐさ 宵を迎える 追憶の ササノイツキ

お世辞でもいい綺麗と言って甘い痛みで胸刺して 砂漠谷レマ

夢追って はるか遠くへ旅立つ君に 言えずにしまった恋心 ゆかり

バカもかわいいのはいいけれどだからそろそろ気付けバカ 南葦太

閉じたまぶたに張り付く笑顔見つめ続けて朝が来る ひらたてる

土も根も葉もなくともいいの実らなくとも花は咲く せいや

少女みたいに胸震わせてあなたが来るのを待っている ごろー



歌詠み「さくらさく／さくらちる」



安い麦酒が手提げで揺れる さくらちるちる 月満ちる いものめ

桜散る日は別れがあうと赤い目擦って笑う君 晴乃

桜散る夜に手を引き駆ける二人隠して花吹雪 ほいる

桜散るとき 椿も落ちた 種も果実も 残さずに ポンゴレーノ麴

桜咲くならこの身を糧に 散らす花卉に乗せてくれ トマトっほい

「さくらさくころ、またあいましょう。」指切り彼方 さくらちる 透子

さくらさくらとぬしは笑うた狂い咲きたる白雪に ルオ

花の香は匂う記憶が今甦る散らした恋だわ久しぶり 下弦



君は桜さ 狂ってしまえ 意識散らして 閨に酒 和純

同じ花びら 追いかけて走る 僕らの胸に 桜咲く 楓ようこ

背中寒いよ 抱いてておくれ 桜散るのも 見ない振り たれ

桜咲く時 別れもあると 春告鳥が 鳴いている 猫亭屑屋

蕾綻ぶころに出会って さくらちるねと 閨の中 ナダ

照れたあなたの 言葉の意味を さくらさくまで 知らぬまま 名堀

カーテン開けば 愛しい君の 最期を 予期して さくらちる むこれっど

美食惚けた痴れ者の前 黄身に落ちたる桜裂く 梅原 鷗外

桜咲くらむ 来年こそは 涙で受け取る サクラチル 屑亭猫屋

いくら咲くなと願っていても ついに別れの桜咲く 豆太

名残惜しくもさよならしましょ 桜散るよう潔く ふちさき

君が帰らぬ春にもやたら光る薄桃桜咲く 福山桃歌

さくら、さくらに見られている、と 漏れる声色 狂う僕 小早川

さくらさくらとつい口ずさみ つづき分からずハナウタに 東風

さくらくらくら視界が揺らぐ 伸ばす手の先さくらちる ageha.

No.16 桜作戦 花見に誘おう 今度こそ あっくん

初春の郷里 さくら散るころ ふるき想いが 咲く彼岸 ササノイツキ

薄い衣を脱ぎ去るような桜散るとこ見ていたい 砂漠谷レマ

春来れば 思い出すのは故郷の桜 桜並木よいつまでも ゆかり

君は桜さ苦も無く俺を下に引き寄せ見上げさす 南葦太

桜咲く今お別れしましよ も一度咲くまで泣きましよう ひらたてる

雪に折られた春待ちさくら朔の宵だけ紅を刷く せいや

春のあの日に破れた恋を覚えているよと桜咲く ごろー



自選・他薦  
都々逸再掲



指を折々言の葉捏ねて 他愛なき日の素描集 　いものめ

早く貴方に会いたいあまり 明日佐川で送ります 　ほいる

愛よ 愛なの 愛だったのよ 愛想笑いじゃ なかったの 　ボンゴレーノ麴

やっとあんたとさよならできる 飽くまで寄り添い生きた人 　トマトっぼい

空想ばかり食べているから夢が覚めたら消えておく 　透子

白く光を失くした月に己重ねて虎が哭(な)く 　ルオ

はまってるのがバレばれたくなくて 「なんかさあほら あれあるじゃん」 　下弦

夜の漆黒 羽織の浅葱 雪の真白に 君の紅 　和純

結びたくても 結べないのに 絡み合うのが 人と糸 楓ようこ

三步下がって踏まない影に 夕焼け小焼けでキスをする たれ

添い寝するなら 夜桜よりも 闇に匂いを 運ぶ梅 猫亭屑屋

探してください ガラスの靴に 希望を託した シンデレラ むこれっど

殻を剥かれて 堪忍してと 言葉少ない 茹で卵 屑亭猫屋

シアンマゼンタすべてがセピア イエロー混ぜても濁るだけ 豆太

手慰みにと鶴折る癖に 隠れ潜んだ父娘の血 ふちさき

悪いがあんたを愛してしもた お国言葉が変わるほど 福山桃歌

よいしょよいしょと息子が運ぶ財布はおれのかお前のか  
小早川

私ひとりで花いちもんめ 貴方が欲しいが惚れて負け  
東風

火照る躰に上擦る嬌声 やめて止してと動く腰  
ageha.

さわってごらんよなででごらんよ 嘯みはしないさそう、嘯みは。  
あつくん

胸にありとて 叫んだことば 果てぬ懸想を 閉じ込める  
ササノイツキ

帯に短したすきに長し されど私の命綱  
砂漠谷レマ

悩め少年楽しめ今を いつか恋しい過去になる  
ゆかり

ねこのみみなど付いてはいない君が引っ掻くねこのつめ  
南葦太



触れたご縁を結べぬままに離れ5度目の春が来る　　ひらたてる

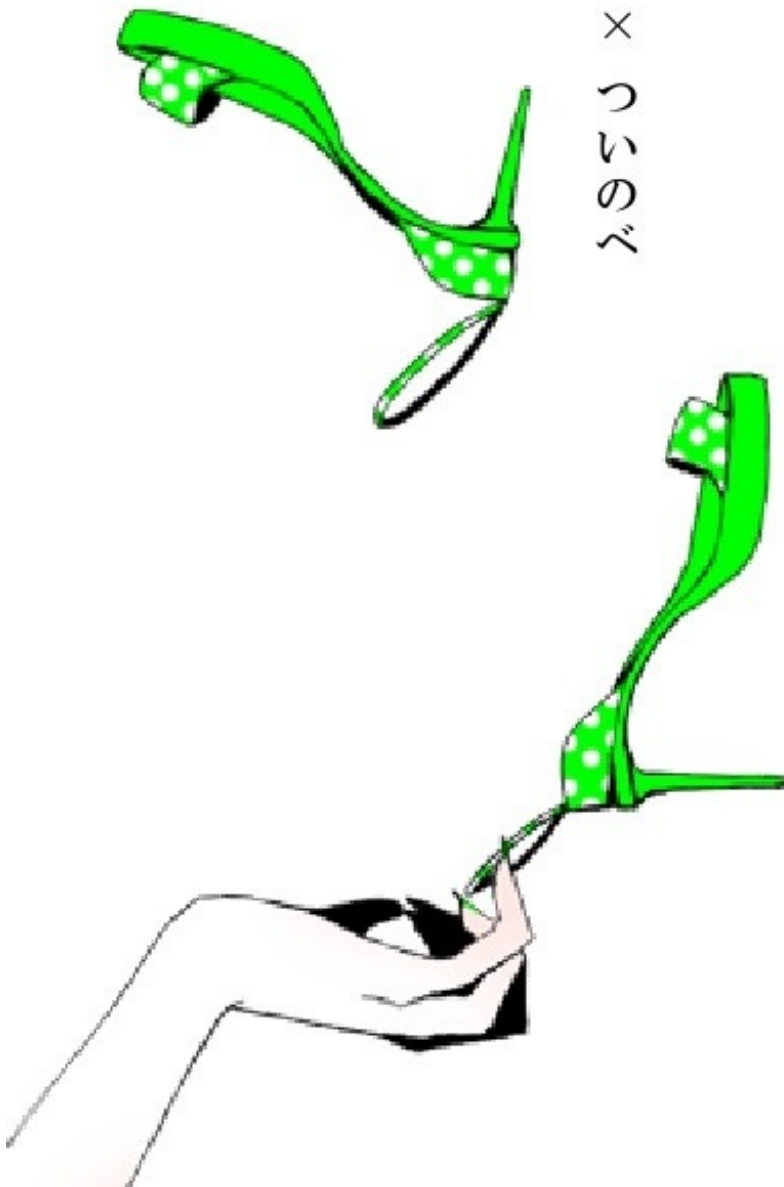
膝にころがり背中をまるめ僕を見上げてひとつなく　　せいや

覚悟しとけよこの頃あの子おまえのことしか話さない　　ころー





都々逸 × ついのべ



## 【例えば君と在るように】

ぐるりと軽く回した筈の肩は、いつそ小  
気味良い程の悲鳴をあげた。

「ご苦労様。悪いな」

背中越しに声がかかったのは、これらが  
日常と化したからだろう。共に肩に負う透  
明な荷は、笑い飛ばすには既に重量があり  
すぎる。

『苦労する身は何いとわねど』

それでも、全てを茶化すように諳んじて  
みせれば、数拍置いて返される、口端を吊  
り上げる気配。

「絶対、お前に苦労し甲斐があったって言  
わせてやるよ」

振り向いて交差した眼差しは、遠い日と  
変わらぬ光を宿していた。

ルオ



苦労する身は何いとわねど  
苦労し甲斐のあるように

## 【不毛】

あの人の近くに行けばこうなることはわかってた。わかってたけど。腹が立つ。

「どうして私が行く必要があるんですか」

「何か問題が？」

「ありますよ。勝手に決めないで下さい」

お前の予定はおれのものだ、とばかりに、断りもなく週末の予定を抑えられる。それも一度や二度ではない。

「だってお前がいらないとつまらないし」

まただ。何気なく、悪気なく、思わせぶりなことを言う。

そして結局私は従ってしまう。

バカみたい。理由なんか聞かなければよ



かった。こうなるってわかってたんだから。  
ああ、腹が立つ。  
余裕ありげな笑顔も、薬指の指輪も。

小早川

【笑えばいいと思うよ】

深夜零時過ぎ。もはやこれが定時だろうかと思いたくなるような終電帰りの日々、つい重い息を吐く。疲れはたまる一方だが、これも彼女のためと思い直して玄関の前で襟を正した。情けない顔は見せたくない、疲れた姿は見せたくない。今できる精一杯明るい顔をつくって、玄関の扉を開ける。  
「ただいま、綾波」

豆太



顔見りゃ苦勞を忘れるような  
人がありゃこそ苦勞する



## 【無題】

彼の表を知る者は皆、非情だという、鬼だという。学園祭の目玉である舞台発表。その予定表に赤が入れられ、一団体の空気が加えられている。そっと視線を投げかけ見れば、俯いた彼はほそりと呟く。

「……パフォーマンスをするならば、ある程度の広さが必要だろう」

決まり悪そうな声に、心のうちでこそり笑った。

(だから私は、この人についていくのだ。)

せいや



あの人のごとかがいいかと

尋ねる人にどこが悪いと問い返す





## 【歌詠み舟 航跡】

下弦

季節はやること色々あつて 現実逃避の暮  
来月 ネットプリント流行りの今日よ何  
か私も作りたい そんなさなかにふと思ひ  
たつ (紙なら折るのもできんじゃない?)

歌で景色をあらわすだとか 角度で見え方  
違うとか 歌集編むにも本とは違う 形に  
なったら愉快かも 和歌が付いてる立体物  
は見たことあるもの日本史で (気になる  
あなたはこいつでググれ↓「ふなばしまきえ  
すずりばこ」)

折り紙するなら次元は問わぬのり針ハサ  
ミも要りやせん ワクワクするのは組み立  
て付録 紙を手にすりやまずは鶴 好きや  
苦手もあるはずだけど どうか折り合いつき  
ますよう

長方形紙で折れそなものはさすが、ある  
あるピバ先人 どうせ形にするものならば  
実際使えるものもいい 「箱」と「舟」と  
が良さそうだけどここは「歌」だし舟でいく  
両面カラーや大きい紙もネプリだったら  
出しやすい 端に五ミリの余白は出るが  
うまく折りこめ丸めこめ 夢は膨らむだが  
待てお前今日の作業はどうしたよ

季節はやること一段落で 現実謳歌の祝い  
月 乗るは和歌なら何でもありの みんな  
大好き「歌詠み」舟 さあていよいよ募集  
を出すぞ (実はこいつが苦手だな)

一ヶ月間机の上に 山と積まれた試し折り  
出かけるお方をつかまえセブン 行きや帰り  
に寄るイレブン PDFって羨ましいわ  
すぐにできるし軽量化

企画好きなの だが気の利いた 勧誘文句  
は捻れない 悪戯心と不安に舟が土か木か  
すら明かさない ありがたいのはなおノリ  
ノリに 乗り込むクラスタ十三名 (コソコ  
ソしたのは反省したよ みんなでやるのが楽  
しいよ)

楽しかったり苦勞をしたりズレて地団駄  
踏んでたり 思い切ってるこのデザインは  
予想通りの出来上がり (美術の先生はい  
つでも言った なんか雑だと、詰めすぎと)  
だけど自作は唯一無二よ 眺め回してご満悦

集まる歌たち色とりどりで みなも個性が  
乱反射 プリントアウトし細切りにして  
舟に糊付けして設置 解体したのを定規で  
測り イラストスタジオにてデザイン

「なんなのこれは」といぶかる人を使い  
ガイドの写真撮る 本体できたしページも  
できた ネット登録いざ進水 ドキワクハ  
ラビクあらゆる擬音 出しつつ完成ご報告

「折ってみた」とか「使ってみた」に喜び飛び跳ねまわったり 折るのに苦心の知らせも届きやっぱりなあ…:と想ったり  
漢字間違い気付いてしまい 青くなったり慌てたり

とにもかくにも野望を遂げて 季節は浮かれる梅見月

青い悩みよつまらぬことよ 気にすること  
じゃあないけれど 口を開けば角が立つ  
情を晒せば笑われる 意地を通せば偏屈だ  
とかくこの世はめんどくさい  
そんな想いが 常ではないが ときに心に  
のしかかる

舌の足りないカエルをいつも 七五のリズムが助けてる 一匹蛙にない楽しみを歌の仲間が教えてる

人を流れに例えるならば 沿うて棹さす舟になれ

(もしもあなたが興味を持って 折ってみようと思うなら ここにデータがあるので見てね 「蛙の遊び場」 歌詠み舟)







暖かい春の日差しが祝っているよ  
おめでと今年も幸せに

悠佳里



## 執筆者一覧（五十音順・括弧内ツイッターID）

ageha. (秘密) エターナルフォース都々逸！相手は爆発する

あつくん (@seamallow) 花粉症も鼻炎もありません。

いものめ (@imonome) ちよつと試しに覗いたら深い沼でした。

梅原陽外 (@vortice) 都々逸羽織ってごろ寝したい。

楓ようこ (@duomapple) 『七七七五』と指を手折る、そんな自分がわりと好き♥

下弦 (@kagen\_s) 歌詠みに参加するまで都々逸という言葉すら知らなんだ

和純 (@kasumivoice) レッツ都々逸！桜木囲み 春の宴を始めましょう！

東風 (@kochi\_192) 大丈夫大丈夫。脊髄で詠める。

ごろー (@urashimagorou) 季刊が出て、それに参加もできて、うれしいです。

ササノイツキ (@hermit\_of\_usagi) 宅録音楽家だよ。anon(エイ・エヌ)お見知りおきを。

砂漠谷レマ (@splanxnizomai) 三々歌もよろしくね！

せいや (@petitchante) 川に流れて行く言の葉が、春を呼び込む風となる

たれ (@tare\_kotoba) お声をかけてくださって感謝！楽しく参加させていただきました。

- トマトっばい (@vol\_008) 都々逸ドイドイ 春色恋歌 薄く色付く花と肌？
- 透子 (@suetetic) 春の陽気に誘われまして。
- ナダ (@nada\_s) 都々逸ははじめてです。お手柔らかにお願いいたします。
- 名堀 (@heartbeatz) お題のせいで今猛烈に、お花見したい
- 猫亭屑屋 (@gattoneilauto) こうしてまとめてくださいる方々に感謝多謝。
- 晴乃 (@haruno\_) 春に浮かれて詠んでみました。
- ひらたてる (@BB\_teru) 滑り込み投稿ズザー
- 福山桃歌 (@peachsong\_521) 本誌に引き続き参加させていただけて嬉しいです
- ほいる (@hoiru\_utayomi) 行こう、このクラスタもまた、じきに腐海に沈む
- ボンゴレーノ麴 (@peperoncino\_k) 僕ら野に咲くあざみの花よ気付かす愛でてくださいいな
- 豆太 (@qwerty\_misp) 都々逸どいどい社畜勢
- 南葦太 (@asita) 本業は短歌屋です(キリッ)
- むこれっど (不明) 参加させていただき、ありがとうございます。
- ゆかり (@yukari\_rio) 春が好き。桜が好き。あつたかい陽も人も好き。
- ルオ (@ruo129) 最近はTRPG界隈を飛び回る、文字書き白癡です。





小早川 (@dodoitsu) 遊ほ、遊ほとリズムに乗ってガヤガヤ集まるとある春  
ふちさき (@ken\_d) 春号のはずなのに初夏公開になってすみません (土下座)

以上 三十名



## Special Thanks\*



<http://num7.oteage.net/>



<http://usotukisyounenxxx.com/>



<http://kaketa.web.fc2.com/>



<http://nobara.chu.jp/sss/>



<http://www.wafuso zai.com/>

表紙及び書籍内でのイラストに素材をお借りしました。

都々逸エレキ冊子 唄う阿呆に詠む阿呆

二〇一四年五月末日 発行

執筆 都々逸クラスタ一同

装丁 猫屋久太・ふちさき

編集 小早川禿秋・ふちさき

本書の内容についてのご意見・お問い合わせは  
編集者のツイッター([@dodoitsu](https://twitter.com/dodoitsu))にお願いします。

